

明つく悔いたのに

三郎くんへの手紙

パンフレット
No. 43 1959

労働省
婦人少年局

婦人
34
16

目 次

- 三郎の日記（その一）
- お得意さんに叱られて
- 機械工はすばらしい
- 昔の話を聞いて
- こんな人は嫌われます
- たのしい仲間づくり
- 三郎の日記（その二）
- 参 考

三郎の日記（その一）

○月○日

就職してはやくもいく月か過ぎた。このごろ、ぼくは自分のしている仕事に誇がもてなくなつた。世の中には、もつと良さそうな仕事、きれいな仕事がたくさんあるのに、と思うと、急に別の仕事に変わらなくなつた。

それに職場には、えこひいきをする人や、意地の悪い人がいて、ぼくを馬鹿にする。いつも下品な話をしているのもいやだ。

休日や自由時間も少ない。そのうえ何でも気がねなく話し合える友だちがいないのでつまらない。職場を変えてみようかと思うことがたびたびある。

○月○日

ぼくは、この職場をやめることを真剣に考えてみた。しかしやめるとはいつでもできる。そこで先輩や中学時代の同級生に、いまの悩みを書いて手紙を出した。返事がきた。

たくさんの返事の中から、特にぼくの気持ちをひきたててくれたものを、二、三書きとめておこう。

お得意さんに叱られて

同級生 A 君の手紙

三郎君、ぼくが酒屋のご用聞きになつてから、ちようど半年になる。今では商品の名前も一通り覚え、お得意さんにも慣れた。しかし、ずい分いやなこともあつたよ。ことにお得意さんの奥さんや女中さんは苦手

だ。雨の日なんか配達に手間どつて、どうしても時間がかかる。すると「遅いじゃないの、前の小僧さんはこんなじゃなかったわよ」などと叱られる。「途中で遊んでいたんでしょ」とか、「酒屋はほかにもあるのよ」と皮肉を言われることもあつた。ぼくは腹がたつた。「もうこんなうちにで用聞きしてやるものか」と思つた。

だけど、考えてみるとぼくの配達が遅れると、夕飯の仕度に困るんだな、だからぼくの来るのを首を長くして待つていたのだと思う。ひどい言葉で怒るけれど、きつと心の中では「ああよかった」と思つてゐるのじゃないかな。そこでぼくは、頭をかきながら言つた、「すみません。明日はもつと早くおとどけます」。そうしたら、こわい顔をしてゐた奥さんが急に顔をほころばせて「間に合つてゐるけれど、じや味の素でも届けてもらおうかしら」。

こんなことがあつてから、ぼくはお客さんの勝手な言い分を気持ちよく聞いてあげようと努力している。腹をたてずに、無理なことを聞いてあげるたびに、自分のほうが人間として少しづつ止等になつていくような気がする。この気持は、直接お客さんに接するぼくたち店員でなければ味わえないものだと思つている。安いけど給料もらいながら人間をみがけるんだから、いい商売だよ。

機械工はすばらしい

同級生 B 君 より

三郎君、自分の仕事や職場がいやになることは、ぼくにも時々あるよ。ほかの仕事をしている人の方が条件がよさそうで、ぼくのように油にまみれて一生機械工で終るのはつまらないような気がしたのさ。

そんなとき、故郷の父さんから手紙がきた。

「やつと耕運機を買った。この部品はお前の手でつくられたのかも知れないと思うと、この新しい耕運機になんとも言えない愛着を覚える」と書かれていた。ぼくは胸がつまつた。

ぼくの工場は機械の部品ばかり作っているが、これがどこかの工場で、ぼくたちのような若い工員の手で作り出される部品といつしよになつて、新型の自動車や田舎の父母の使う農機具なんかになるのかと思うと楽しい。ものをつくり出すつてことは素晴らしいぞ。

音のはなしを聞いて

同級生 C さんから

三郎さん、わたしたち、学校ではみんな思っていることをずいぶん活

発に話し合いましたね。ところがお勤めをしてみると、自分の言いたいことも言葉に出せなくなつてしまいました。主人のきげんが悪くて何をしてもいいがわからないとき、また皆がちがうことを言いつけるのでどうしてよいかわからないとき、わたしは、ただおずおずするだけでした。するとみんな「間ぬけだ」「ぐすだ」とわたしを批難します。大人の氣どころが知れないのは、ほんとうに不安です。どうかして、主人や番頭さんとも話し合えるようになりたいと思つて、この前仕事が終わつてから思いきつて主人に「いつごろから今のお仕事をはじめられたのですか」とたずねてみました。これは思つた以上によい話のいとぐちになりました。主人はわたしよりももつと若い時からいろいろ苦労してきた様子を話してくれました。そのうち番頭さんや奥さんも加わつて話はずみましました。

このことがきつかけとなつて、ご主人などと話し合えるようになりま
した。そして、今とは社会しゃかいのしくみも大変たいへんちがつていた時代じだいの生活せいかつをして
きた大人おとなの人たちの考えることが、少しづつわかるような気がして、昔
のことや古いやり方などのよい点も理解りかいできるようになりました。こと
に、仕事のこととわからないとき、みんなの命令めいれいがまちまちなとき、ど
んどん質問しつもんしたり、思つたことを卒直そつちよくに言えるようになったため、失敗しつぱい
して叱しやられたり、気がきかないと陰口かげぐちを言われることも少なくなつたの
は、うれしいことです。

人の意見いけんをきいて、何んでも話し合えることは、職場生活しよくばせいかつをたのしくす
るコツだと思ひます。気のせいか、主人も前よりきげんがよくなつたよ
うですし、仕事のこととわたしに意見いけんを求めもとてくれることもあります。
ですから仕事にはりあひがあつて、研究心けんきゅうしんも湧わいてきます。

こんな人は嫌われます

先輩の M さんから

三郎君、きみは「職場の土役がえこひいきをするのでくやしい」と手紙で訴だえている。きみの気持はよくわかるが、そんなことでくよくよするのはつまらないじゃないか。ぼくは先輩として、きみがもつとのびのびと働いてくれるよう希望する。

「えこひいきをする上役はけしからん」というが、きみはなぜある人は好かれ、ある人は嫌われるか考えたことがあるだろうか。ぼくは、どんな従業員が上役から嫌われるか、考えてみたので参考に書きとめよう。

嫌われる人

- 礼儀作法の悪い人。挨拶をしない人。来客に対して不親切な人。
- 仕事に研究心や熱意のない人。

○仕事に責任感がなく、言いつけたことを忘れたり、やつても報告しない人。

○自分の失敗をかくしたり、他人になすりつける人。

○材料や機械・工具・商品などをそまつにあつかう人。

○常識に乏しく、勉強しない人。

○不満やかげ口の多い人。

○はきはきしない人。いつも疲れた様子でダラダラしている人。

○みだしなみの悪い人。あくどいおしやれをする人。

きみには、こんなことはないと思うが、それでもゆつくり反省してみないか。また手紙を書きよ。身体には十分注意したまえ。

たのしい仲間づくり

同級生 D さんから

三郎さん、お便りありがとうございます。いまわたしは住込みの縫製工として一日中ミシンを踏んでいます。仕事は楽ではありませんし、自由になる時間もないし、それに食事だつて十分とはいえません。

でもそんな不平をみな吹きとばしてしまうほど素晴らしいものがあります。それは、わたしたちの仲間「励まし合いグループ」があることです。いま会員は十五名ほです。これはある人生雑誌の読者欄に投書したのがきっかけで、文通をはじめた仲間たちです。はじめは働く生活の悩みや苦しさなどを、手紙に書いてなぐさめたり、励まし合つたのですが、その後、仲間がだんだんふえたので「回覧ノート」をつくつて、自分の思つたこと、歌や詩など、なんでも好きなことを書いて廻していま

す。機関誌きかんしを作りたいと思つていますが、みんな休日がまちまちだつたり、遠く離れてはないるため、全員集まることができないので、今は見合みあひせています。

このグループは、まだお互いに顔を合せたことのない人もありますが、もう一つ近所の働く仲間があります。「若芽わかめグループ」といつて、昨年十一月の「働く年少者のつどい」で知り合つた仲間が中心になつて、近くの店員や工員、新聞配達はんだつの少年などに呼びかけて作つたグループです。

自分の持つている本を貸し合つたり、休日に労政事務所ろうせいじむしょのピンポン台を借りて試合しあいをします。労政事務所では電蓄でんちくも貸してくれるので、日曜日に集まれる人で、レコードコンサートをしたこともあります。今度は都合つごうのつく人で、サイクリングをする予定よていもあります。全員参加さんかできる

と楽しいのですが、今はできる範囲はんいでやっています。

このグループのことを、職長しよくちやうさんに話したら、とても理解りかいをもつてくれました。みんなも店主や奥さんに話して、わたしたちのすることを理解してもらうよう努力しています。そして、一人でも多く働く若い仲間が、このグループに参加して、励まし合いながら楽しく働けるよう呼びかけています。

三郎さんも、わたしたちの文通の仲間に入りませんか。今度、「廻覧かいらんノート

」を送つてあげましょう。また、近所の働く仲間と話合つて、いっしょに休みがとれるとき、ピクニックに行つたりしてみてはいかがですか。

三 郎 の 日 記 (その二)

○ 月 ○ 日

友だちは、みんな自分の道を自分できりひらいているな。どんな仕事も考え方一つで、よいものにも、つまらないものにもなるんだ。大人だつてこつちの出方^{でかた}一つで、ぼくたちを理解してくれるんだ。それに、自分から呼びかければみんなすぐ友だちになれるのだ。全国には三〇〇万人近くのぼくたち働く仲間がいる。一人ぼつちだと思つたり、すぐ弱音^{よわめ}をだして仕事がいやになつては間違^{まちが}いだ。そう思うと勇氣^{ゆうき}が湧^わいてきた。

参

考

各都道府県の婦人少年室

は、みなさんの働く生活のことで、お困りのことやご質問など（電話、手紙、来室、いずれでも結構です）なんでも気軽に相談くださることをお待ちしています。

婦人少年室協助員
年少労働者福祉員

も、ご相談ごとを受け付けています。そのほか、次の機関もみなさんのお役に立つよう努力しています。気軽にご利用くだ

さい。

労政事務所（労働組合や働く生活の福祉のことをあつかう）

労働基準監督署（労働生活を保護する法規がよく守られているかどうか監督す

る）

公共職業安定所（職業の紹介などをする）

このパンフレットを読んで、ここに書かれた人たちの考え方や、やり方をどう思いますか。あなたのご意見をおよせください。

また、こんなことを知りたい、こんなときどうしたらよいか、というご質問がありましたら、お知らせください。

ご意見の送り先は

東京都千代田区大手町一ノ七

労働省婦人少年局